

**富山県中小企業の振興と人材の育成等に関する県民会議**  
**平成 25 年度第 1 回人材育成専門部会（議事概要）**

**日 時** 平成 25 年 4 月 24 日（水）13:30～15:00

**場 所** 県民会館 302 号室

- 議 事**
- （1）平成25年度 富山県の人材育成等に関する施策の概要等について
  - （2）平成25年度 国（厚生労働省）の主な施策の概要について
  - （3）その他

**委員からの主な意見**

- ・ 各種団体等でいろいろな研修や講座等を開催しているが、これらの情報を総合的に提供する機能・仕組みが必要と感じている。例えば、県のホームページ上にある『とやまワークガイド』で、そのような情報を総合的に提供できないか。そうすれば、受講希望者の利便性の向上につながる。
- ・ 当団体では今年度、中小企業の人材の確保、人材の職場への定着に資するよう、大学、行政機関、経済団体等の協力を得て、新たな事業展開を予定している。
- ・ 電機やものづくり企業では、研修よりも、一緒に現場の改善に取り組んでくれる人材、指導してくれる人材の紹介を希望している。また、問題点の見つけ方や改善のヒントを出してもらいたいことを望んでいる企業もある。ヒントを出してもらい、従業員が自ら気づき、実施していくということが人材育成につながる。
- ・ 県では、成功事例（採用や社内の人材育成・定着、女性の活躍等について）の紹介や見学会の企画等に取り組んでもらいたい。各企業における取組みのヒントになる。
- ・ どういう仕事に就きたいのかに目覚める時期の中学生や高校生の教育を考え直してみる必要があるのではないか。ものづくりの魅力や職人芸などをどのように伝えていくか、国を挙げて真剣に考える必要がある。
- ・ インターンシップや職場体験により、高校生は、この仕事は合う・合わないと判断し、その生徒の今後の方向が決まってくることもある。県内の離職率が低い要因とも考えられるので、企業には今後も協力してもらいたい。

- 小さいときから、どのような職業に就きたいかや、働く意義について考えることは大変大事なことだと思う。また、ある経済界の方の「親子と一緒に働くことを教育にも取り入れた方がよい。」というご意見に感心した。こういう点について、教育の面でも、家庭への働きかけの面でも、取り組んでいければよいと思う。
- 仕事をしながら、家事、子育てをするのは大変だが、育児後に職場に復帰することも、仕事を継続することも、女性にとっては大事なことだと思う。
- 働く意欲を持つことはすごくいいことだが、実際には、つらいこと、汚いこと、やりたくないことも多い。インターンシップでは、そのような面を理解してもらうことも、雇用のミスマッチの解消という意味で必要ではないかと思う。
- 若い人たちに中小企業で働く魅力を伝えるには、中小企業が請け負った仕事が、世の中でこのように生かされているということをPRしていく必要がある。
- 現在は賃金もあまり上がらない状況にあるが、労働条件や賃金を改善していかなければ、雇用のミスマッチは解消しないと考えている。若い世代に頑張ってもらうためには、仕事の受け皿をきちんとつくり、働き甲斐のある職場づくりをしていく必要がある。
- 65歳までの雇用義務が企業に課されるようになったが、60歳を節目に賃金を大幅に削減する会社が増えている。年金等を合わせれば、手取り額はあまり変わらないが、実際には、賃金ダウン後に退職される方の割合が多く、継続雇用につながらないケースが増えている。このため、個々人の評価は給料だけで行うのではなく、会社の中で互いに評価し合うような仕組みづくりも大切だと思う。
- 小学校の校長先生の話では、小学生のときは理科系に興味を持っていても、中学校に行くと途端に理系の興味が薄れていくとのこと。「14歳の挑戦」でも、もう少し製造業の方々に積極的なPRに取り組んでいただき、中学生がものづくりに興味を持つようにしていただきたいと思う。